

# 令和元年度 活動報告 (年報)



電気柵の設置作業（城山国有林）



国有林見学会（夏季）



三浦貯水池と御嶽山

林野庁 中部森林管理局  
木曽森林ふれあい推進センター

令和2年4月16日発行

〒397-0001 長野県木曽郡木曽町福島1250-7

TEL 0264(22)2122 FAX 0264(21)3151

E-mail : kiso-fureai@maff.go.jp

一年を振り返って

平成31年度は天皇陛下の即位に伴い5月1日から令和元年度となり、新たな元号が始まった年となりました。

当所においては、4月に所長と自然再生指導官1名が交代し、4名体制で事業に取り組むこととなり、私も着任早々から木曾地域の各行事への出席や自然環境保全・整備の活動参加等、初めてと言っていい仕事が目白押しで慌ただしく過ぎていきました。

当木曾森林ふれあい推進センターの設置の主な目的は、1,自然再生・生物の多様性の保全・その他森林整備の推進及び森林の保全の確保を図る取組に対する技術的指導、その他の支援。2,森林の有する多面的な機能の発揮に関する教育及び学習に対する技術的指導その他の支援。であり、その推進に取り組むことです。

今年度当センターが行った取組みの一部について紹介させていただきます。(各事業の詳細は次頁以降に記載しています)

自然再生・生物多様性の保全の取組として、①三者協定(信州大学・森林総合研究所・中部森林管理局)に基づき王滝村にある助六実験林で「木曾悠久の森」の更新調査。②木曾駒ヶ岳植生復元事業での植生マットの補修作業。③城山史跡の森(城山国有林)での希少野生植物の保護活動及び植生調査。④野生動物の成育調査等(ニホンジカ食害予防対策としての生息調査、ライトセンサス、クマ錯誤捕獲防止実証試験)を関係機関等からの協力を得て実施しました。長年にわたり取り組んでいる事業や最近始まった事業もありますが、いずれも継続していくことが重要と考えています。

森林の機能発揮に関する教育・学習に関する取組として、①木曾川上下流交流事業としての「国有林見学会」を年3回開催しました。この見学会は、木曾川下流域の名古屋市を中心とした住民の方々に、木曾地域の林業の歩みと江戸時代から深い繋がりをもつ名古屋と木曾との関係について理解していただくことと木曾地域の振興を目的に行っています。②森林環境教育として、各NPO団体との林業体験事業での技術指導や中・高校生の体験学習・森林散策の指導・案内を行い、森林の役割や林業の歴史・現状について説明しながら森林にふれあう場とすることが出来ました。

その他にも御嶽山噴火等で甚大な被害を受けた木曾地域の復興の一助として「パズルラリー」を木曾十一宿(旧中山道の宿場町)と赤沢自然休養林で継続して行っています。

1年間多くの関係機関のご指導とご協力をいただきながら事業活動を行って参りました。おかげさまで多くの方々と森林を通してふれあうことができましたこと、当センター業務にご協力していただいたことを皆様に感謝いたします。

[所長：室崎浩伸]

## 活動内容等

第1	温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組	
1	「木曾悠久の森写真」スマートフォン写真コンテスト表彰式	… 1
2	三者協定 現地検討会（三浦実験林）	… 2
3	阿寺地区の人工林ヒノキ優良林分展示林のプロット整備	… 2
第2	自然再生事業	
1	中央アルプス（木曾駒ヶ岳）における植生復元事業	… 3
2	NPO等の支援・連携を活用した城山史跡の森づくり事業	… 5
第3	ニホンジカによる植生の食害を予防するための調査事業	
1	生息調査	… 8
2	クマ錯誤捕獲防止実証試験	… 10
第4	森林ボランティアへの技術支援	
1	「森林ボランティア・NPO連携推進会議」の開催	… 11
第5	木曾川上下流交流事業	
1	育樹祭、体験学習等	… 12
2	国有林見学会	… 15
第6	森林散策・木曾谷支援事業	
1	パズルラリーの普及	… 17
	年間の活動及び行事等	… 20

## 活動フィールド

主な活動区域を木曾森林管理署及び南木曾支署管内とし、ニーズに応じて局管内全域で活動する。

## 沿革等

平成16年	4月	1日	木曾森林環境保全ふれあいセンター設置 (所在地：長野県木曾郡日義村)
平成17年	11月	1日	木曾町誕生による所在地名変更 (所在地：長野県木曾郡木曾町日義)
平成18年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曾郡木曾町福島5471-1)
平成24年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曾郡木曾町福島1250-7)
平成25年	4月	1日	名称変更 「木曾森林ふれあい推進センター」



# 第1 温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組

## 木曾悠久の森

天然のヒノキ、サワラ等を交える木曾地方の森林は、良質の木材産地として古くから歴史的建造物の維持や地場産業の継承・振興に大きな役割を果たし、温帯性針葉樹がまとまって自然度の高い状態を構成していることから、世界的にも貴重な森林となっています。

中部森林管理局では木曾地方（長野県木曾地域及び岐阜県裏木曾地域）の温帯性針葉樹林の保存と復元を図る取組を通じて、先人たちが守り育ててきた森林からもたらされる、さまざまな恩恵を将来にわたって維持できるようにすることを目的に「木曾悠久の森」を設定し、当センターでは局・関係署等の連携を通じた取組を行っています。



位置図

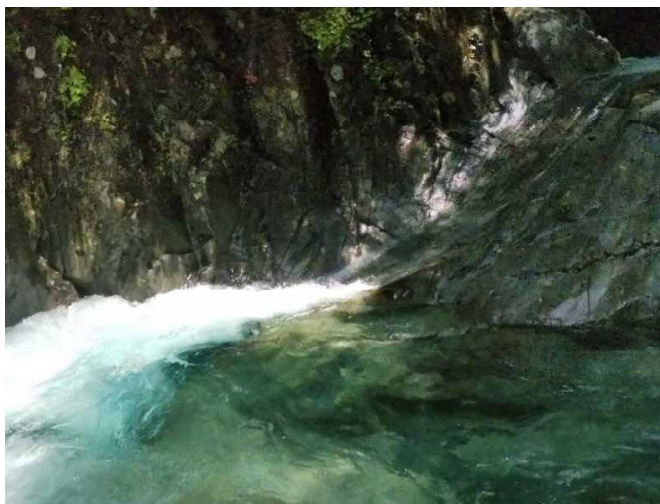


温帯性針葉樹林（長野県木曾郡王滝村）

## 1 「木曾悠久の森写真」スマートフォン写真コンテスト表彰式

「木曾悠久の森」をより多くの方に知って親しまれることを目的に、平成27年度の第1回、平成29年度の第2回に続き、第3回「木曾悠久の森スマートフォン写真コンテスト」を4月27日から8月31日まで開催し、27名の方から53作品の応募がありました。審査会において一般の部から最優秀賞1点、優秀賞4点、入選2点、小中学生の部から最優秀賞、優秀賞、入選を各1点の計10作品を選定しました。

入選作品の表彰式は10月6日（日）に赤沢自然休養林で行い、表彰式に併せ1ヶ月間、赤沢森林交流センターで入選作品を展示し、来訪者の皆様に四季折々に創り出す森林の豊かな表情を楽しんでいただきました。



小中学校の部 最優秀作品



一般の部 最優秀作品

## 2 三者協定 現地検討会（三浦実験林）

中部森林管理局では平成28年度に森林研究・整備機構森林総合研究所と信州大学農学部との間で「森林・林業及び木材利用に関する研究・技術開発等における連携と協力に関する協定」を締結し、今年度の取組の一環として3者による現地視察を7月22～23日に木曾森林管理署管内に所在する三浦（みうれ）国有林において実施しました。三浦国有林は「木曾悠久の森」のエリア外ですが、三浦実験林などで古くから木曾ヒノキ天然更新技術の先駆けとして実験を行ってきた箇所です。今回は三者がそれぞれ主体に取り組んでいる箇所を確認し意見交換を行いました。

また、同署に所在する「木曾悠久の森」のコアa（核心地域）に属している助六（すけろく）実験林において、平成11年から継続実施してきた更新調査を平成30年度から当センターで受け持ちました。関係機関から調査方法の指導・助言をいただきながら局・木曾署と連携して11月にヒノキ等更新樹種の生育及び更新阻害の要因とされるササの状況等の調査を行いました。今年度は従来から実施してきた方正プロット（1m×1m）の調査と合わせ、一部プロットをベルトトランセクト（4m×50mの帯状プロット）に変更したことから、調査箇所の設定と初期調査を実施しました。



三者協定現地視察（三浦国有林）

また、平成11年から平成30年までの調査データの分析結果を12月7日に岐阜大学で開催された中部森林学会大会において発表しました。

## 3 阿寺地区の人工林ヒノキ優良林分展示林のプロット整備

人工林から天然林へ復元するコアb（核心地域）では、森林のもつ公益的機能に支障が生じないように間伐等の保育を適切に行うとともに、抜き切りを繰り返して林床の天然稚幼樹の発生・生長を促すなど、自然の推移を踏まえた超長期にわたる育成複層林施業等の実施を通じて、目標とする天然ヒノキ大径木を主体とした林型へ誘導することを目的としています。

当センターでは、木曾郡大桑村阿寺国有林にある「人工林ヒノキ優良林分展示林」内で、平成28年度から高齢級間伐林分における更新状況等を把握する調査を行いました。ここは平成25年度の間伐に伴ってヒノキ等の稚樹が発生していた箇所です。また、「木曾悠久の森」の取組等に関する参考として各種調査等に着手し、今年度は調査地の整備を実施しました。



人工林ヒノキ展示林（阿寺国有林）

※ コアa（核心地域）：温帯性針葉樹林を厳格に保存する区域

コアb（核心地域）：温帯性針葉樹林の復元を図る区域

## 第2 自然再生事業

### 趣旨

NPO等との連携を図りつつ地域ニーズ等に対応した自然再生の取組を推進し、自然再生活動事業を実施します。

### 1 中央アルプス（木曾駒ヶ岳）における植生復元事業

#### ① 事業概要

中央アルプス木曾駒ヶ岳周辺においては、登山者による踏み荒らしや大量の降雨、降雪等による砂礫の移動等により高山植物の生育地が荒廃し、貴重な高山植物の衰退が懸念されています。

平成16年、植生荒廃の著しい登山道周辺において、高山植物の現況と将来的に荒廃した植生の復元を図るため、関係する行政機関、学識経験者、山岳会、自然保護団体、NPO等を含めた幅広い分野の専門家による検討会を立上げ、植生の復元・維持管理のための具体的な方法等に関する検討を行い、それを基に方針を立てボランティアの協力の下、平成17年度より植生復元事業を実施しています。

#### ◎年度別マットによる敷設経過

年 月 日	敷 設 箇 所	面積 (㎡)	参加者(人)
17. 9. 29	天狗荘裏	210	26
18. 9. 21	天狗荘裏	210	30
19. 9. 19	伊那前岳八合目	210	36
20. 9. 18	乗越浄土・伊那前岳九合目・登山道沿い	213	31
21. 9. 02	駒ヶ岳頂上山荘横（鞍部）	202	31
22. 9. 14	天狗荘裏・伊那前岳方面	200	33
23. 9. 15	天狗荘北西・伊那前岳方面の新規と補修	191	36
24. 9. 12	駒ヶ岳山頂等・伊那前岳方面の新規と補修	235	36
25. 9. 12	極楽平周辺・三の沢岳登山道周辺	140	29
26. 9. 11	頂上山荘横・伊那前岳方面の新規と補修	156	46
27. 10. 13	(荒天のため中止)		
28. 7. 20	天狗荘裏・頂上山荘周辺・伊那前岳方面	150	12
28. 9. 09	天狗荘周辺・伊那前岳方面	106	30
29. 9. 14	天狗荘裏	95	16
30. 9. 13	天狗荘裏	80	13
元. 9. 11	天狗荘裏	80	15
計		2,478	420

注) 参加者には、ボランティア、行政機関等が含まれる。

#### ② 令和元年度の取り組みについて

17～18年度実行箇所では、登山道沿いなどの一部では植生回復が遅れていたことから、植生マットの再敷設による補修作業と、完熟したミヤマクロスゲ、コマススキ等の種子を採取し、敷設地への播種も併せて行いました。

今年度は作業地付近が濃霧と強風により作業は難航しましたが、地元長野県駒ヶ



根市をはじめ関係署等の協力をいただき、再敷設等の作業を無事に終えることができました。しかし、高山植物の種子播種は当日実施できなかったため後日当センター職員により実施しました。

以前に植生マットの敷設を行ったものの、マットの劣化や植生の回復が遅れている箇所が散在していることから、地域関係者等の協力を得ながら必要な作業を今後とも実施していくことにしています。



作業着手前の状況（8月1日）



資材の運搬



植生マット敷設1



植生マット敷設2



種子のまきつけ(播種)



作業実施後の状況

## 2 NPO等の支援・連携を活用した城山史跡の森づくり事業

### 「城山史跡の森」における「城山史跡の森倶楽部」及び地元自治体等との協働における森林整備及び森林環境教育の実施

木曾郡木曾町福島市街地の北西に位置する城山国有林は、戦国時代木曾氏によって築かれた山城である福島城跡や、木曾義仲にまつわる権現滝など伝承のある史跡等に恵まれ、JR木曾福島駅から比較的短時間で木曾ヒノキ、サワラ、モミ等の大径木や季節ごとの植物観察等が気軽にできるコースとして県内外から観光客が訪れています。

「城山史跡の森倶楽部」が主体となって実施する「城山史跡の森」の森林整備、希少野生植物の保護活動等に対し、当センターでは支援、協力を行っています。

また、「城山史跡の森」は、木曾川下流域の人たちとの交流の場としても活用されています。

#### (1) コウヤマキの更新調査

コウヤマキは日本固有の常緑針葉樹で、高野山に多くみられることからその名に由来するといわれ、一科一属一種の極めて特異な樹種です。

用途は建築、器具等に用いられ、水に強く腐りにくい特徴から、古くから風呂桶や船舶等の用途にも使われています。

木曾谷地域でのコウヤマキの生育箇所は限られる中、「城山史跡の森」の遊歩道の沿線には群をなして生育している箇所があることから、天然稚樹の育成を目的として平成21～22年度に下木処理を行い、以降、稚幼樹の生長調査を実施しています。



コウヤマキ生長調査(11月28日)

#### (2) 希少野生植物等の生育箇所の整備

城山国有林「城山史跡の森」には、長野県希少野生動植物保護条例の指定を受けているササユリ、ヤマシャクヤク、カザグルマのほか各地でも保護活動が盛んになっているカタクリの自生地があります。

今年度は、ササユリ自生地において「城山史跡の森倶楽部」会員の皆さんとともに、野生動物による食害防止のため電気柵の設置等の作業を行いました。

また、カザグルマ自生地におけるツルの整理や支柱の補強を行いました。



電気柵の設置(ササユリ自生地)



ツルの整理(カザグルマ自生地)



◎ **カタクリの開花調査**

H 2 6      4 1 本を確認  
H 2 7      5 4 本  
H 2 8      2 2 本  
H 2 9      3 7 本  
H 3 0      1 4 本  
H 3 1      4 本      →  
(4月)



◎ **ヤマシャクヤクの開花調査**

H 2 6    2 6 9 本  
H 2 7    2 6 4 本  
H 2 8    3 5 7 本 (個体)  
H 2 9    2 0 7 本  
H 3 0    1 7 7 本  
R 1      2 1 8 本      →  
(5月)



◎ **カザグルマの開花調査**

H 2 6    1 3 0 本  
H 2 7    1 3 9 本  
H 2 8    (整備中のため調査未実施)  
H 2 9    7 0 本  
H 3 0    2 0 9 本  
R 1      1 6 1 本      →  
(5月)



◎ **ササユリの開花調査**

H 2 6      3 4 本  
H 2 7      2 7 本  
H 2 8      2 9 本  
H 2 9      3 2 本  
H 3 0      3 2 本  
R 1      2 8 本      →  
(6月)



### (3) 史跡の森内における森林環境教育等の支援・協力

城山史跡の森倶楽部は、「城山史跡の森」の国有林のうち、城山風致探勝林（レクリエーションの森）に指定されている区域について、平成16年度に木曽森林管理署と「城山史跡の森における森林整備等の活動に関する協定書」（対象面積77.9ha）を締結し、協定に基づき歩道や森林整備作業、地域や上下流域の交流を図りながら森林環境保全意識の啓発活動や多様な体験活動を実施しています。

当センターでは、同倶楽部の活動全体を支援する立場で、情報の提供や助言、現地案内、技術・安全指導、道具の貸与など協力を行っています。

#### ① 遊歩道の整備

4月8日（月）の春の観光シーズンと7月16日（火）の夏休みシーズンを迎える前に自然散策等を安全かつ快適に楽しんでいただくため、城山史跡の森倶楽部会員とともに「城山史跡の森」遊歩道等の整備を行いました。

風倒木や、崩落等の影響で遊歩道の通行に支障が生じていたことから、これらの処理を中心に作業を行いました。



遊歩道の整備

### 第3 ニホンジカによる植生の食害を予防するための調査事業

深刻化しているニホンジカによる森林及び高山植物への被害について、木曽地域では顕著に現れていない状況ですが、中央アルプス山麓ではニホンジカが確認されています。

今後、各地への被害が懸念されており、木曽森林管理署及び木曽森林管理署南木曽支署では実態に応じた対策が進められています。

当センターでも関係機関等との連携を図り、センサーカメラ及びライトセンサスによる生息調査、クマ錯誤捕獲防止実証試験を行っています。

#### 1 生息調査

##### (1) センサーカメラによる生息調査

センサーカメラによる生息調査は、平成28年度から中央アルプス山麓及び高山帯にカメラを設置し、ニホンジカの移動状況等の観測を行っており、確認された地点ではセンサーカメラを増設するなど監視を続けています。

平成29年度には中央アルプス南部（木曽森林管理署南木曽支署管内）に位置する空木岳周辺（うつぎだけ）、越百山（こすもやま）周辺の標高2,500～2,600m付近でニホンジカの生息が確認されたことから、引き続きカメラを6台（内3台は昨年度自然災害により回収ができなかったため存置）を設置したところ、木曽殿越（きそどのごえ）から回収したカメラから木曽殿山荘付近の標高2,485mの林内でオス3頭、メス2頭が確認されました。

木曽殿越7合目、8合目の登山道に設置したカメラからはニホンジカが確認されなかったことから、木曽殿山荘付近で確認されたニホンジカは伊那谷から木曽谷に移動して来たと推測されます。

その他の中央アルプス登山道沿いに設置したセンサーカメラの結果は表-1のとおりです。

表-1 中央アルプス登山道沿い、稜線での出現状況

箇所数	撮影頭数					設置期間
	オス	メス	幼獣	不明	計	
6	20	70	0	0	90	通年

また、平成29年度に御嶽山の八合目の岐阜県側で、岐阜森林管理署が設置したカメラにニホンジカが確認されたことから、御嶽山の長野県側に2台（中の湯跡、女人堂付近）のカメラを7月～10月まで間設置し調査を行いました。ニホンジカを確認することはできませんでした。

中央アルプス山麓では木曽町内の国有林内（標高1,300m）3箇所にカメラを4月～12月まで設置しました。そのうちの1箇所については毎月撮影され、6月～9月の出没傾向が高くなっていました。（表-2）

表-2 中央アルプス山麓での出現状況

箇所数	撮影頭数					設置日数
	オス	メス	幼獣	不明	計	
3	62	73	0	4	139	825





中央アルプス登山道沿いのオスジカ



中央アルプス山麓のオスジカ

## (2) ライトセンサスの実施

ライトセンサスによる生息調査は、平成29年度から中央アルプス山麓の国有林での調査に加え、御嶽山八合目の岐阜県側でニホンジカが確認された事から、長野県王滝村の御嶽山麓の「おんたけ2240スキー場（標高1,680m～2,240m）」を中心に実施箇所を追加して調査を行いました。

今年度は、雑草の繁茂期を避けた5月～11月に、長野県木曾地域振興局林務課及び木曾森林管理署と合同で9回調査を行いました。

結果として、今年度はニホンジカおよびタヌキ、キツネ等の小動物も目撃することはできませんでした。

引き続きライトセンサスによるニホンジカの生息調査を行いたいと考えています。



実施状況（中央アルプス山麓）

## 2 クマ錯誤捕獲防止実証試験

木曽地方ではツキノワグマ（以下クマという）の生息が多数確認されており、ニホンジカ用くくりワナによるクマの錯誤捕獲が課題となっています。このため中央アルプス山麓の国有林において、クマ錯誤捕獲防止実証試験を地元の猟友会に委託し10月～11月に延べ25日間行いました。

実証試験では、クマ錯誤捕獲防止用ワナであるバネ無しくくりワナの「いのしか御用」17cm（直径）タイプ5台と、確実にニホンジカのみを捕獲する「いのしか御用+Y式トラップ」とを組み合わせた17cmタイプ5台の計10台を設置し、干し草を角型に整形固形化した誘引餌「ヘイキューブ」を2箇所を設置しました。「いのしか御用」は、クマの大きな足がワナの枠の中に入らない設計になっています。

実証試験の結果、ニホンジカの捕獲には結びつきませんが、10箇所のうち1箇所（同じ箇所）でクマがワナの上を通った動画とイノシシがワナに掛かり損ねた動画が確認されました。

この箇所は「いのしか御用」だけを設置した箇所であり、Y式トラップと組み合わせたワナであったならクマは掛からずにイノシシは捕獲出来たかもしれません。

令和2年度は「いのしか御用」のみを10箇所、Y式トラップと組み合わせたタイプを10箇所の計20箇所に増設し、実証試験を重ねることによりその効果を検証するとともにその成果を普及し、クマ錯誤捕獲防止に努めたいと考えています。



Y式トラップ



いのしか御用+Y式トラップ



ワナの上を通過するクマ



ワナに掛かりそこなったイノシシ



ワナの位置



## 第4 森林ボランティアへの技術支援

### 1 「森林ボランティア・NPO連携推進会議」の開催

中部森林管理局管内で活動する森林ボランティア団体やNPO法人との交流促進及び情報交換や相互研鑽を行うとともに、広く一般の皆さんに国民参加の森林づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPRすることを目的に10月25日（金）、26日（土）の2日間、北安曇郡松川村の「リンリンパーク」で、ボランティア6団体と局署職員合わせて22名が参加して、「森林ボランティア・NPO連携推進会議」を開催しました。



降りしきる雨の中での開会式

1日目の開会式は中信森林管理署長の挨拶で始まり、開会式後は中信署管内の治山工事現場の視察を予定していましたが、豪雨のため急きょ園内の野外ステージに場所を移し、ワークショップ等で初対面の人間同士がその緊張をほぐすための手法の一つ、「アイスブレイク」を全員で実践し見識を広めました。その後も雨が降り続く中、参加者全員が雨合羽を着用し、翌日の会場準備とそれぞれ担当するブース毎に分かれ、打合せ等を行い1日目を終了しました。

2日目は前日の豪雨から、一転して薄日が差し込む曇り空の下で「森・ふれあいフェスタ」の開催となりました。

当日は松川村の「村制130周年」イベント行事が開催される中で、ミニイス作りや木工細工など8個のブースを設営し、訪れた一般市民約290名の方に様々な体験を楽しんで頂き、多くの親子連れの方々から「楽しかった」との声が聞かれました。

また、参加されたボランティア団体の皆さんも、2日間を通して充実した連携・交流の場となりました。



ミニイス作りを楽しむ親子



木工細工ができて喜ぶ子供達



## 第5 木曾川上下流交流事業

### 1 育樹祭、体験学習等

#### (1) 第70回長野県植樹祭

長野県木曾郡木曾町三岳 黒沢御嶽 国有林において6月8日(土)「育てよう 未来の森を いろどる木」を大会テーマに開催され、県内外から約1,000名の方々が参加しました。

当日は小雨が降る中、中部森林管理局長による開式の挨拶に始まり、その後の各セレモニーも順調に進み、最後にみどりの少年団と地元猟友会によるキジの放鳥が行われ、無事に式典が終了しました。

式典終了後、参加者達は各グループ毎に分かれて植樹会場に移動し、約30cm程度に生長したカラマツのポット苗5,600本の植栽を行いました。

また、同時に上皇陛下が天皇在位中の平成28年度に長野市で開催された全国植樹祭の時に播かれたカラマツの種から育った苗木3本も、新天皇の即位を記念して植えられました。



当センターで設営した展示ブース



植付作業を行う参加者

植樹祭の時に播かれたカラマツの種から育った苗木3本も、新天皇の即位を記念して植えられました。

当センターは準備委員会に実行委員として参加し、植樹祭当日は木曾森林管理署と連携して、道具の貸出しや植付指導等を行うとともに、出展ブースでは中部森林管理局の取組や当センターで行っているパズルラリー、「木曾悠久の森」スマートフォン写真コンテスト募集の紹介などを行いました。

#### (2) みよし市・木曾町友好の森ふれあいツアー

愛知県みよし市は、木曾郡木曾町三岳地区内に水源涵養林として保有している「友好の森」の保全活動(除間伐作業)を通じ、市民の皆さんに森林保護、環境保全等の啓発を行うとともに、上下流域交流を図ることを目的に「みよし市友好の森ふれあいツアー」を平成15年度から始め、今回で17回目の開催となります。

8月24日(土)に開催され、当日は一般参加のみよし市民30名(内小中学生20名)と市職員7名が訪れ、まず最初に御嶽ロープウェイの乗車体験を行



手鋸を使用して伐倒作業を体験をする小学生

い、その後に場所を「友好の森」に移動し参加した市民を5班に分け、作業現地までの森林散策を行いました。到着後は、木曾森林組合の職員による伐倒及びクマ剥ぎ防止テープ巻き方法の指導を受けたのち、班別に分かれて作業を行いました。

当センターと木曾森林管理署職員もそれぞれの班に分かれて作業指導を行いました。中でも参加した小中学生の子供達は、手鋸で木を切ることが初めての子が多く大変苦労していましたが、木が倒れた時の嬉しそうな顔が印象的でした。また、記念に倒した木を輪切りにして持ち帰る子供達も少なからずおり、山の仕事を楽しみながらケガも無く無事終了しました。

### (3) 木曾地区みどりの少年団交流集会



木曾五木のペン立てを作成している様子

木曾地区のみどりの少年団が一同に会し、緑豊かな自然の中でお互いに交流し、共同作業や森林・林業その他自然に関する学習活動を通じて相互の連携を深め、緑豊かな心を育むことを目的とした「木曾地区みどりの少年団交流集会」が、7月31日(水)に長野県木曾地域振興局の主催で開催され、当センターも技術指導のため参加しました。

当交流会は木曾地域の町村で毎年開催されており、昨年に続き今年も王滝村「松原スポーツ公園」を会場に10の少年団、引率教員、主催者、指導者等含めて約130名が参加しました。

当日は代表として4つのみどりの少年団による活動発表後に各グループに別れ名札の作成及び自己紹介を行いました。その後、「アイズブレイク」でグループ内の緊張をほぐし、森や自然、木曾五木等に関するクイズラリーを行いました。

午後からも引き続きグループ毎で木工体験として木曾五木の板を使用したペン立て作りを行いました。

子供達は完成する頃にはお互いに仲良くなり、良い交流の場となりました。

### (4) 犬山中学校森林体験学習

愛知県犬山市の犬山中学校は、市の水源の一つである木曾川上流の木曾地域において、木曾の自然や文化を学ぶ木曾総合学習を2日3泊の日程で平成11年から毎年行っており、今年で21年目となりました。2年生の224人は、その最初の体験学習として、5月29日(水)に赤沢自然休養林内で、遊歩道へのヒノキチップ敷設作業と森林散策を3つのグループに分かれ行いました。



遊歩道にチップ撒く生徒達

当センターも木曾森林管理署職員とそれぞれのグループにおいて作業指導と散策の案内を行いました。都会にはない自然の中での作業でもあり、良い体験になったと思います。



## (5) 阿久比高校森林ボランティア作業

8月6日(火)愛知県立阿久比高等学校の生徒45名と教師4名により、木曾郡上松町の小川入国有林においてクマ被害防止テープ巻き作業を行いました。

阿久比高校では、生徒達が例年阿久比町内外でボランティア活動を実施しており、この森林ボランティア作業もその一環として行われ、今回で21回目となります。

作業地は毎年長野県西部地震復旧跡地の「国民の森」において除伐作業を実施していましたが、平成30年7月に発生した豪雨により林道等が被害を受け未だ通行が困難な状況のため、昨年度同様に作業場所を変更して実施しました。

当日は4班に分かれ、当センター職員の指導の下それぞれ班毎にクマ被害防止テープ巻き作業を行いました。どの生徒も最初は慣れない作業で手間取っていましたが、作業を進める内に徐々にうまく作業が出来るようになり、最後まで怪我も無く無事に作業を終了することができました。今回のボランティア作業を通して、森林の大切さや森づくりの苦労などを理解してもらえたことと思います。



クマ被害防止テープを巻く学生達



縦に並びクマ被害防止テープを巻く学生達

## (6) NPO法人 地球緑化センター

NPO法人「地球緑化センター」は、日本各地での森林を守り育てる活動を推進するため、平成8年に赤沢自然休養林で市民参加による森づくりとして「山と緑の協力隊」第1回プログラムを開始し、その後、「ふれあいの森(名称:『大樹の森・赤沢』)」の協定を締結以降、毎年春と秋に森林整備を実施しています。

今年度は5月25日(土)、26日(日)と10月19日(土)、20日(日)に延べ40名がヒノキ除間伐作業を行い、

当センター及び木曾森林管理署職員から伐倒方法の手順、かかり木処理の仕方などの安全指導を受けながら作業を実施しました。その後、天然更新試験地の見学、ヒノキ等の更新メカニズムや保育の大切さの説明を受けました。

また、10月20日は除間伐作業終了後、平成17年度に行われた「第62回御みそま始祭はじめさい」の御神木の伐採跡地に移動し、御神木の選木条件、三つ紐切り等みつひもきりの説明を受け無事に作業を終了しました。



ヒノキの除伐作業を行う参加者



## (7) 中日森友隊ボランティア作業

中日森友隊は、市民参加の育林作業を通じて、健全な森林環境づくりの手助けを行い、「緑を育て森に親しむ」市民の輪を広げ次世代に伝えることを目的として活動をしているボランティア団体です。

森林ボランティア作業は、木曾郡王滝村で、昭和59年9月14日に発生した長野県西部地震の災害復旧跡地である「国民の森」で毎年継続して除伐作業を実施していましたが、平成30年7月に発生した豪雨により林道等が被害を受け未だ通行が困難な状況のため、昨年度と同じ王滝村にある「名古屋市民おんたけ休暇村」で行いました。5月5日（日）にヒノキ人工林の間伐作業を、休暇村職員及び当センター職員の作業指導のもと実施しました。当日は天候に恵まれた中、参加した14名は3班に分れ、ノコギリを使用して形質不良の植栽木等の伐倒と枝払い及び1.2mでの玉切り、その後歩道までの運搬作業を行いました。特にヒノキの伐倒作業ではほとんどがかり木となるなか、当センター等から貸出したロープ、フェリングレバーやチルホールを使用してかり木処理をするなど安全作業に徹して作業した結果、全員が怪我もなく無事に作業を終えることができました。



玉切りしたヒノキを運搬する隊員

## 2 国有林見学会

木曾森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曾川下流域の住民を対象とした「木曾の国有林見学会」を、本年度は5月23日（木）、7月21日（日）、10月29日（火）に開催しました。

この催しは、江戸時代から現在まで深い繋がりをもつ木曾地域と名古屋市との関係や、日本の森林・林業について理解を深めてもらうことと、併せて木曾地域復興支援を目的に、下流域の都市住民の方々に木曾川源流の国有林を訪ねていただき、木曾地域の林業のあゆみ、木材輸送方法（伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産）及び木材が名古屋市の熱田白鳥湊にたどり着くまでの運材技術の変遷や、木材の生地を実際に見聞きしていただく学習講座です。名古屋市内を中心にそれぞれ40名程度の一般参加者とガイドを行う国有林職員により実施しており、口コミ等により名古屋市民から好評をいただいています。

見学会に先駆け参加者の中で希望者を対象に、より見学会を有意義にさせていただくため、名古屋事務所が「熱田白鳥の歴史館」において、名古屋市熱田区に貯木場が所在したこと、木曾地域との関係や赤沢自然休養林の概要などを写真や映像を使い理解を深めるための事前学習会を開催しました。

当日は、バスの中で森林鉄道や木曾ヒノキに関する映像を観るとともに、当センター所長から赤沢自然休養林までの景勝地等の説明を受けながら、木曾ヒノキの生

地へと向かいました。

春の見学会は天候に恵まれ赤沢自然休養林に到着後、暖かな日差しの中で昼食をとり、森林鉄道で木曾ヒノキの森林と溪流が織り成す景色を眺めながら終点「丸山渡停車場」へ移動しました。職員のガイドにより歴史とともに育まれてきた樹齢約300年余りの木曾ヒノキやサワラが生い茂る林内を散策しながら、木曾の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曾五木の見分け方や特徴などを学びました。



木曾五木の説明を聞く参加者（夏季）

また、夏の見学会では夏休みの期間であったことから、昨年度に引き続き小学生4名の参加がありました。子供達には森林の働き等について学びながら散策をしてもらい、「お弁当がおいしかった」「森林鉄道に乗れて良かった」との感想がありました。一方で夏休み期間であっても小学生の参加が少なかったことが課題となりました。

3回目の秋の見学会はあいにくの雨模様の中での散策でしたが、紅葉の時季でもあり定員一杯の参加者となりました。散策後には来年度以降の見学会の開催について簡単なアンケートに記入していただき、ほぼ全員の参加者から「参加して良かった」「引き続き継続をお願いしたい」との回答が得られたとともに、「事前学習もあり勉強になりました」「今度は良い天気にも再度ゆっくりと来たいです」との感想をいただきました。

なお、この国有林見学会は木曾復興支援の取組に位置づけており、今後も実施にあたり参加者からの意見を企画に反映させ、より意義のある催しになるよう努めて参ります。

## 第6 森林散策・木曽谷支援事業

### 1 パズルラリーの普及

#### (1) 中山道 木曽十一宿パズルラリー

平成26年の御嶽山噴火災害の発生から5年目となる現在では木曽谷を訪れる観光客は噴火前の59%（平成25年291万人、令和元年172万人）と、大幅に落ち込んでいます。

このパズルラリーは、長野県の提唱する「つながろう木曽応援運動」の一環として、木曽谷の観光ルートである木曽街道にちなみ、過去の歴史上の偉人・文豪等により創生された木曽ブランドが有する集客や木曽谷の連帯強化への波及効果を期待した取組です。

長野県塩尻市贄川（にえかわ）宿から岐阜県中津川市馬籠（まごめ）宿までの十一の旧宿場を木曽郡木曽町の福島宿と木曽郡上松町の上松宿を境に北部と南部に分け、それぞれ6分割されたパズルピースを旧宿場に設置したパズル箱の中に置き、これらを全て集めると浮世絵が2種類完成します。パズルの絵柄は、歌川広重が描いた「木曽街道六十九次」から「贄川」（北部）、「上ヶ松」（南部）を木曽路美術館の協力を得て採用しました。



北部 贄川



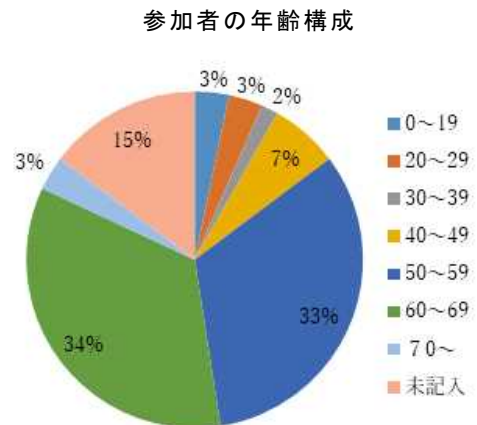
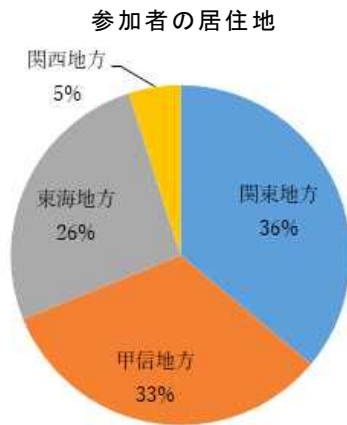
南部 上ヶ松

木曽路美術館 所蔵

このラリーは平成29年11月1日から北部、南部でそれぞれ500セットを準備し、令和元年12月末で好評のうちに予定数量が終了しました。

参加者の内訳は関東地方居住者が36%、甲信地方居住者が33%、東海地方居住者が26%を占め、年齢別では50歳代以上が70%で男女別では男性56%、女性44%でした。





## (2) 中山道 木曾十一宿パズルラリー第2弾

中山道木曾十一宿パズルラリー第1弾に引き続き、令和2年1月から第2弾を始めました。

第2弾は第1弾と同じく歌川広重が描いた「木曾街道六十九次」から「奈良井」(北部)、「須原」(南部)を木曾路美術館の協力を得て採用しました。

パズルラリーに挑戦する方は中山道を歩いて巡る方が多く、今年は暖冬でしたが、やはり冬期間は歩く方が少なく、挑戦人数は令和2年3月末時点で11人でした。



北部 奈良井



南部 須原

木曾路美術館 所蔵

## (3) 赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー

平成29年11月で終了した「木曾路トレッキングパズルラリー」の普及版であり、赤沢自然休養林内の遊歩道を対象に、短時間で完成することが出来る「赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー」第5弾を平成31年4月27日～令和元年9月2日まで実施しました。

パズルの絵柄は、中部森林管理局が所蔵し林業遺産にも登録された「木曾式伐木

運材図会」の1場面を6分割したものです。

この木曾式伐木運材図会は、江戸時代後期頃の木曾地方や飛騨地方の奥山で大木を伐採するところから、造材、搬出・集材、木曾川でのいかだによる流送、熱田の白鳥湊（愛知県名古屋市）での集積、大型船による海上輸送までの様子が、作業工程順に絵図と詞書(ことばがき)で説明されている絵巻物上・下巻（2巻）で、上巻から「柚小屋の図其二」を採用しました。

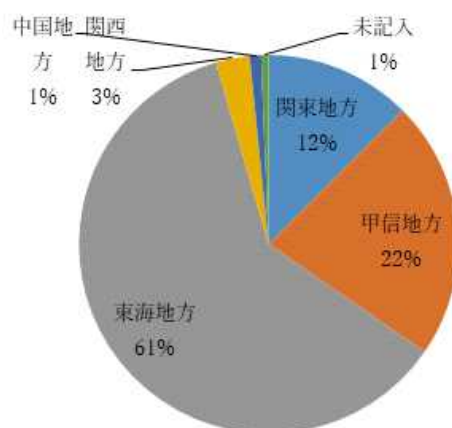


赤沢自然休養林 第5弾

参加者の居住地別では、東海地方からのお客さんの挑戦が上位を占め、まさに川上と川下の交流が果たされたと感じました。中には第4弾で北海道から1名のお客さんが挑戦されました。

性別は男性、女性ともほぼ同数で年齢構成は50歳以上が60%以上となりました。

第5弾 参加者の居住地



パズルラリーは、平成28年度から始めた事業であり、木曾谷の観光地への集客にもたらした影響は未知数ですが、協賛していただいた各団体からも「好評だった、継続して欲しい」との意見もあり、地元町村や観光協会等の協力を得ながら木曾谷支援の取組として、令和2年度も引き続きパズルラリーを実施します。

## 年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
4	4	長野県林業大学校入学式(木曽町)
	5	長野県木曽青峰高校入学式(木曽町)
	8	城山史跡の森 遊歩道等整備作業(木曽町「城山史跡の森」)
	10	第2回長野県植樹祭実行委員会(木曽町)
	13	NPO木曽ひのきの森総会(上松町)
	23	第1回「森林ボランティア・NPO連携推進会議」実行委員会(松川村)
	25	城山史跡の森 カタクリ自生調査(木曽町「城山史跡の森」)
	27	赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー開始(上松町「赤沢自然休養林」)
	27	NPO木曽川・水の始発駅総会(木祖村)
5	5	中日森友隊 森林ボランティア作業(王滝村)
	10	長野県上松技術専門学校 林業体験(上松町「赤沢自然休養林」)
	13	城山史跡の森 ササユリ 電気柵設置(木曽町「城山史跡の森」)
	15	第1回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曽町八沢入)
	16	城山史跡の森 ヤマシャクヤク自生調査(木曽町「城山史跡の森」)
	20	城山史跡の森 カザグルマ自生調査(木曽町「城山史跡の森」)
	22	木曽福島林業振興会総会(木曽町)
	23	木曽の国有林見学会(令和元年春期)(上松町「赤沢自然休養林」)
	24	長野県木曽青峰高校体験学習(上松町「赤沢自然休養林」)
	25~26	NPO地球緑化センター 「山と緑の協力隊」赤沢プログラム(上松町「赤沢自然休養林」)
	29	愛知県犬山中学校木曽総合学習(上松町「赤沢自然休養林」)
30	第2回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曽町八沢入)	
6	6	第3回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曽町八沢入)
	8	長野県植樹祭(木曽町)
	18	長野県林業総合センター 研究成果発表会(塩尻市)
	18	城山史跡の森 ササユリ自生調査(木曽町「城山史跡の森」)
	20	森林・林業体験交流促進対策 第5回検討委員会(王滝村)
	25	第4回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曽町八沢入)
	28	高山植物等保護対策協議会木曽地区総会(上松町「木曽森林管理署」)



## 年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
7	6	東京農業大学現地案内(上松町「小川入国有林」)
	8	木曾町・木曾森林管理署 林政懇談会(木曾町)
	8	国有林クリーン活動(上松町「赤沢自然休養林」)
	16	城山史跡の森 遊歩道等整備作業(木曾町「城山史跡の森」)
	21	木曾の国有林見学会(令和元年夏季)(上松町「赤沢自然休養林」)
	22~23	三者協定現地検討会(王滝村 助六実験林外)
	31	木曾地区みどりの少年団交流集会(王滝村「松原スポーツ公園」)
8	6	阿久比高校森林ボランティア作業(上松町「赤沢自然休養林」)
	8	城山史跡の森倶楽部役員会(木曾町)
	9	第3回長野県植樹祭実行委員会(木曾町)
	10	高山植物等保護合同パトロール(木曾町)
	24	みよし市友好の森ふれあいツアー(木曾町「みよし市友好の森」)
	28	第2回「森林ボランティア・NPO連携推進会議」実行委員会(松川村)
9	2	赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー終了(上松町「赤沢自然休養林」)
	9	城山史跡の森 遊歩道等整備作業(木曾町「城山史跡の森」)
	11	中央アルプス木曾駒ヶ岳植生復元作業
	13	中央アルプス木曾駒ヶ岳植生復元作業(種子散布)
	18	スマートフォン写真コンテスト審査会(上松町「木曾森林管理署」)
	19	第1回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(王滝村田の原)
	24	第5回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町八沢入)
10	1~2	「木曾悠久の森」管理委員会(上松町、王滝村)
	6	森林浴大会・スマートフォン写真コンテスト表彰式(上松町「赤沢自然休養林」)
	7	国有林等所在市町村長有志連絡協議会木曾地区総会(上松町「木曾森林管理署」)
	11	王滝山の子学校協議会(王滝村)
	13	熱田区区民まつり(名古屋市熱田区)
	17	第6回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町八沢入)
	19~20	NPO地球緑化センター 「山と緑の協力隊」赤沢プログラム(上松町「赤沢自然休養林」)
	23	第3回「森林ボランティア・NPO連携推進会議」実行委員会(松川村)
	25~26	森林ボランティア・NPO連絡推進会議(松川村)
	29	木曾の国有林見学会(令和元年秋季)(上松町「赤沢自然休養林」)
	29	第7回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾町八沢入)

## 年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
11	6	第2回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(王滝村田の原)
	11	第8回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曽町八沢入)
	12	ドイツ人研究者赤沢案内(上松町)
	19	ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(王滝村春山線)
	20	城山史跡の森 ササユリ自生地他整備作業(木曽町「城山史跡の森」)
	26	第9回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曽町八沢入)
	28	城山史跡の森 コウヤマキ更新調査(木曽町)
12	2～3	中部森林管理局・森林総合研究所 技術交流会(王滝村、「御岳国有林」)
	7	中部森林学会 第9回大会(岐阜市)
	24	城山史跡の森 カタクリ自生地整備(木曽町)
1	9	カラマツ林業等研究会設立40周年記念シンポジウム(塩尻市)
	20	城山史跡の森倶楽部役員会(木曽町)
	27	森林ボランティア・NPO連絡推進会議実行委員会(松本市「中信森林管理署」)
	30～31	中部森林技術交流発表会(長野市「中部森林管理局」)
2	4	「木曽悠久の森」植生専門部会・地域振興部会(上松町「木曽森林管理署」)
3	23	城山史跡の森倶楽部役員会(木曽町)